

## 令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 66人 | 算数 | 66人 | 理科 | 66人 |
| 第5学年 | 国語 | 85人 | 算数 | 85人 | 理科 | 85人 |

#### 5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

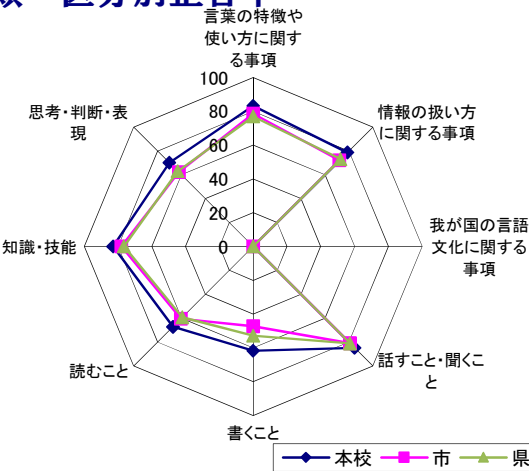
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 83.3 | 78.6 | 76.9 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 78.8 | 72.2 | 73.1 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
|     | 話すこと・聞くこと        | 84.9 | 81.0 | 81.1 |
|     | 書くこと             | 61.7 | 47.2 | 52.8 |
|     | 読むこと             | 67.1 | 60.5 | 59.3 |
| 観点  | 知識・技能            | 82.9 | 78.0 | 76.5 |
|     | 思考・判断・表現         | 70.2 | 62.3 | 63.1 |



★指導の工夫と改善

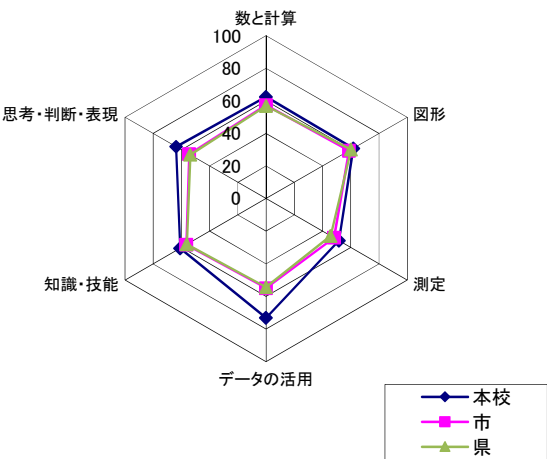
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                            |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | ・領域の正答率は83.3%で、県よりも6.4ポイント高い。<br>○漢字の読みの問題の正答率は全て90%以上を示しており、県よりも高い。<br>○漢字の書きの問題の正答率は、全て県よりも高い。特に、「美しい」の正答率は83.3%で、県よりも14.9ポイント高い。<br>●文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかを問う問題の正答率は60.6%で、県よりも2.3ポイント低い。                    | ・文中における主語と述語との関係を捉えさせるために、日々の授業の中で主語と述語を意識した短文づくりに取り組ませ、定着を図る。                                                                      |
| 情報の扱い方にに関する事項    | ・領域の正答率は78.8%で、県よりも5.7ポイント高い。<br>○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかを問う問題の正答率は78.8%で、県よりも5.7ポイント高い。                                                                                                                            | ・日々の学習で国語辞典を使う機会を増やし、適切な方法で調べ、一つの見出し語に複数の意味があることに気付かせるとともに、文に合った意味を選択することができるよう、引き続き指導していく。                                         |
| 話すこと・聞くこと        | ・領域の正答率は84.9%で、県よりも3.8ポイント高い。<br>○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題の正答率は95.5%で、非常に高い正答率であった。無解答率も0.0%であった。                                                                                                                 | ・学級活動等の話し合い活動の場でも、役割を決めて話し合う機会を設け、友達の意見を聞いて、考えをまとめながら話し合うことができるようにする。                                                               |
| 書くこと             | ・領域の正答率は61.7%で、県よりも8.9ポイント高い。<br>○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして指定された行数や段落構成で文章を書く問題の正答率は65.2%で、県よりも9.5ポイント高い。<br>●書くことの領域の問題では、全ての問題の無解答率が16.7%であり、書くことを苦手とする児童が一定数いると思われる。                                                 | ・短文づくりや日記など、身近なことについて文章を書く学習を繰り返し行い、書く力を更に高められるようにする。                                                                               |
| 読むこと             | ・領域の正答率は67.1%で、県よりも7.8ポイント高い。<br>○場面の様子について、叙述を基に捉え、文章中の空欄に適する言葉を選ぶ問題の正答率は86.4%で、県よりも3.2ポイント高い。<br>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題は2問出題され、正答率は59.1%と40.9%で、どちらも県よりも12.5ポイント以上高い。しかし、無解答率が高く、それぞれ25.8%と30.3%である。 | ・物語文では、場面ごとに登場人物の気持ちを考えることで、内容を捉える力を高められるよう、引き続き指導していく。<br>・説明文では、段落の内容を捉えることができるように、中心となる言葉を用いて小見出しを付けたり、文章全体を要約したりする学習を繰り返し行っていく。 |

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 62.5 | 57.4 | 56.9 |
|     | 図形       | 61.7 | 58.7 | 60.1 |
|     | 測定       | 51.5 | 48.1 | 45.7 |
|     | データの活用   | 73.2 | 54.9 | 54.3 |
| 観点  | 知識・技能    | 61.0 | 56.6 | 56.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 63.8 | 54.5 | 53.8 |



★指導の工夫と改善

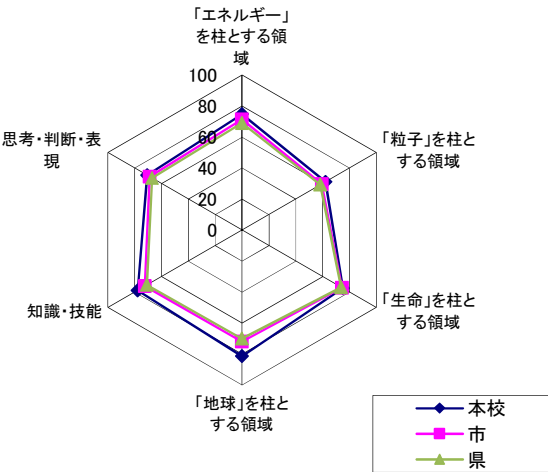
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                            |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | <p>・領域の正答率は62.5%で、県よりも5.6ポイント高い。</p> <p>○3桁－3桁＝3桁の計算の問題の正答率は87.9%で、県よりも6.7ポイント高い。無解答率も0.0%であった。</p> <p>●乗法の性質を利用して、2けた×1けたを計算する式を立てる問題の正答率は34.9%で、県より3.9ポイント高いが、数と計算領域の中で最も低い正答率であり、課題があると言える。</p> <p>●余りの考えをもとに、計算の間違いを説明する問題の正答率は34.9%で、県より9.1ポイント高いが、数と計算領域の中で最も低い正答率である。また、全問題の中で無解答率が最も高い30.3%となっている。</p> | <p>・乘法に関して成り立つ3つの法則(交換法則、結合法則、分配法則)について、具体的な数で計算しながら法則が成り立つことを確かめたり、これらの法則を図や言葉で表現して式と関連付けたりする活動に取り組ませることにより、理解を深め、活用できるようにしていく。</p> <p>・除法が用いられる場面を図で表現させたり、問題場面に戻って答えの意味を考えさせたりすることで、余りの意味を再確認させ、余りの大きさは除数よりも小さくならないことを理解させる。</p> |
| 図形     | <p>・領域の正答率は61.7%で、県よりも1.6ポイント高い。</p> <p>○正三角形の性質を理解し、作図する問題の正答率は78.8%で、県よりも1.0ポイント高い。</p> <p>●二等辺三角形の性質を理解し、3つの頂点を見付ける問題の正答率は40.9%で、県より8.7ポイント高いが、図形領域の中で最も低い正答率である。また、無解答率も13.6%であり、課題があると言える。</p>                                                                                                            | <p>・二等辺三角形は底辺の垂直二等分線上に頂点があることや、いつも底辺が下で頂点が上にあるとは限らないこと等を指導し、二等辺三角形の性質についての理解を深める。さらに、特別な二等辺三角形として、正三角形や直角二等辺三角形があることも指導する。</p>                                                                                                      |
| 測定     | <p>・領域の正答率は51.5%で、県よりも5.8ポイント高い。</p> <p>○単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短い説明する問題の正答率は63.6%で、県よりも11.9ポイント高い。</p> <p>●重さを、基準量のいくつ分かで考え、説明する問題の正答率は56.1%で、県より10.4ポイント高いが、全問題の中で無解答率が2番目に高い18.2%となっている。</p> <p>●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題の正答率は31.8%で、県より2.3ポイント高いが、測定領域の中で最も低い正答率である。</p>                                    | <p>・体重等の日常的な重さの測定の場面を想起させたり、練習問題に多く取り組ませたりすることにより、「(正味の重さ)＝(全体の重さ)－(容器の重さ)」という関係についての理解を深める。</p> <p>・重さの学習の導入で、積み木等の基準量を基にして身の回りのものの重さを表現したことを想起させるとともに、重さの和や差を基準量を基にして表す活動に取り組ませ、定着を図る。</p>                                        |
| データの活用 | <p>・領域の正答率は73.2%で、県よりも18.9ポイント高い。</p> <p>○二次元表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ問題の正答率は77.3%で、県よりも16.6ポイント高い。</p> <p>●データの活用領域で出題された3問全てにおいて、正答率が県よりもかなり高いが、他領域に比べて無解答率が高い傾向にある。</p>                                                                                                                                        | <p>・理科や社会科等の他教科と関連させ、集めたデータを表やグラフを用いて表す活動に取り組ませる。また、表やグラフのどの部分が何を示しているのかを説明し合う活動に取り組ませることで、表やグラフから特徴や傾向を捉えることができるようにする。</p>                                                                                                         |

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 74.7 | 71.4 | 69.1 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 62.1 | 59.3 | 58.3 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 75.1 | 74.5 | 73.8 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 81.4 | 72.0 | 70.1 |
| 観点  | 知識・技能          | 77.8 | 72.5 | 70.9 |
|     | 思考・判断・表現       | 70.6 | 68.8 | 67.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                        | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | ・領域の正答率は74.7%で、県よりも5.6ポイント高い。<br>○輪ゴムの数と車が動く距離の関係を適切に述べた文章を選ぶ問題の正答率は非常に高い95.5%で、県よりも6.2ポイント高い。<br>●音とものの震え方の関連性を記述する問題の正答率は74.2%で、県よりも4.9ポイント低い。                              | ・体験をもとにした活動を重視し、気付いたことや相違点について、自分の言葉でまとめや振り返りを行わせるようにすることで、科学的な言葉で表現する力を高めていく。                                                                                          |
| 「粒子」を柱とする領域    | ・領域の正答率は62.1%で、県よりも3.8ポイント高い。<br>○はかりを用いて正しく調べる方法について問う問題の正答率は95.5%で、県よりも12.1ポイント高い。<br>●個体の形の違いによる重さの変化について予想する問題の正答率は24.2%で、県よりも2.8ポイント低く、全問題の中で最も低い正答率であった。                | ・科学的な用語とその意味を押さえ、実験の考察やまとめなどの文章で表現する際に、進んで使えるように繰り返し指導していく。<br>・実験の考察をする際に、考察を実験結果と関連付けて文章で記述する力を身に付けさせる。                                                               |
| 「生命」を柱とする領域    | ・領域の正答率は75.1%で、県よりも1.3ポイント高い。<br>○生き物の記録カードを比べて分かることを選ぶ問題の正答率は100.0%で、県よりも6.1ポイント高い。<br>●モンシロチョウとトンボの育ち方を比較して差異を文章で答える問題の正答率は48.5%で、県よりも5.8ポイント高いが、「生命」を柱とする領域の中で最も低い正答率であった。 | ・実際に観察することで、昆虫の定義を理解し、他の生き物と照らし合わせて考えられるようにする。<br>・昆虫でも育ち方の違いがあることを理解するために、図鑑を利用したり、1人1台端末で調べさせたりして、興味・関心を高め、文章でまとめさせる。                                                 |
| 「地球」を柱とする領域    | ・領域の正答率は81.4%で、県よりも11.3ポイント高い。<br>○方位磁針や温度計の正しい使い方を学ぶ問題の正答率は、ともに県よりも11ポイント以上高く、無解答率も0.0%であった。特に、温度計の正しい使い方を学ぶ問題の正答率は非常に高く、93.9%であった。                                          | ・観察に使う道具の使い方や使用の目的を押さえ、観察の前に練習するなどして、今後も正しく使えるように支援する。また、日常生活の中で使用する場面を設けるなどして、知識がより深まるようにする。<br>・実験や観察の結果を図や表を用いて表すなどの活動を通して、様々な表現方法に親しませ、図から分かることを適切に読み取ることができるようにする。 |

## 宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は66.7%で、県よりも10.2ポイント高い。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は80.4%で、県よりも15.5ポイント高い。学校で学習したことを家庭学習で復習したり、今後の学習を見通して予習したりしていることが分かる。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は90.9%で、県と同程度である。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は86.4%で、県よりも8.4ポイント高い。さらに、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は92.4%で、県よりも3.0ポイント高い。児童がめあてや振り返りを意識して学習に取り組んでいることが分かる。今後も、宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」の流れに沿った授業展開や、本校が「雀央っ子が今年がんばること」として掲げるめあての設定と振り返りに重点を置いた指導を続けていきたい。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は93.9%で、県よりも6.1ポイント高い。さらに児童が自己肯定感を高めていけるように、家庭との連携を図っていきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は74.3%で、県よりも9.1ポイント低い。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は62.1%で、県よりも12.6ポイント低い。さらに、「自分は勉強がよくできる方だと思う。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は60.6%で、県よりも6.0ポイント低い。児童の学習意欲が高まるような課題の設定や、「分かる・できる」と感じられるような授業展開を心掛け、児童が自分の力で学習できるように支援していきたい。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は45.4%で、県よりも12.0ポイント低い。「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦っている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は72.8%で、県よりも8.5ポイント低い。失敗してもよいという温かな雰囲気をつくったり、挑戦したことを認め、ほめたりすることで自信をつけさせていきたい。

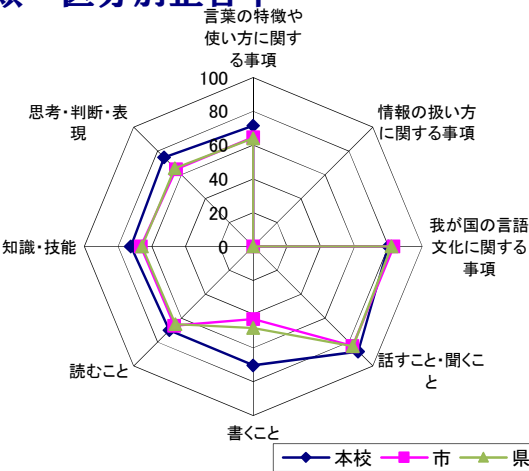
●「理科の学習は、しょう来のために大切だと思いますか。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は81.8%で、県よりも8.9ポイント低い。「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は71.2%で、県よりも6.7ポイント低い。身近で起こる事象について、不思議だと思ったことやもっと知りたいと思ったことなどを追究することで、学習したことが生活につながっていることを理解させたい。

●「家でのきまりや約束を守っている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は80.3%で、県よりも10.4ポイント低い。気持ちよく生活していくために、きまりがあるということを理解させ、約束やきまりを守ることの大切さを指導していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 71.5 | 64.7 | 64.1 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 80.0 | 83.1 | 81.9 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 87.9 | 83.3 | 83.4 |
|     | 書くこと             | 70.3 | 42.8 | 48.2 |
|     | 読むこと             | 70.2 | 66.1 | 65.1 |
| 観点  | 知識・技能            | 72.4 | 66.5 | 65.9 |
|     | 思考・判断・表現         | 74.6 | 64.6 | 65.5 |



★指導の工夫と改善

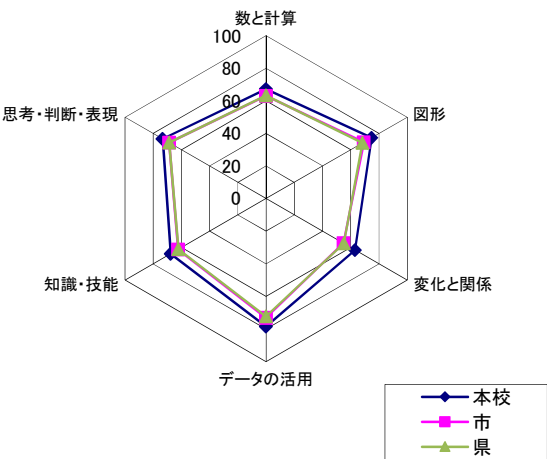
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 今後の指導の重点                                                                                                                                       |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | ・領域の正答率は71.5%で、県よりも7.4ポイント高い。<br>○漢字の読みの問題において、「自信」の正答率は98.8%で、非常に高い正答率であった。<br>○漢字の書きの問題において、「季節」「倉庫」の正答率はどちらも県よりも20ポイント以上高い。<br>●連用修飾語の問題の正答率は5.9%とかなり低く、全問題の中で最も低い正答率であり、県よりも8.8ポイント低い。                                                                                                                                 | ・漢字の定着を図った指導を継続してきたことで、成果が出ていると考えられる。引き続き、漢字練習やミニテストなどの取組を進めたり、自主学習等で積極的に漢字を使うよう指導する。<br>・名詞と動詞の違いを明確にし、修飾と被修飾の関係を捉えることができるように、様々な文章に触れさせ指導する。 |
| 我が国の言語文化に関する事項   | ●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題の正答率は80.0%で、県よりも1.9ポイント低い。                                                                                                                                                                                                                                                                        | ・児童がことわざに興味をもつように、図書室を活用したり、体験的な活動を取り入れたりする。<br>・ことわざの正しい意味を理解した上で、日常生活の中で意識して使えるようにする。                                                        |
| 話すこと・聞くこと        | ・領域の正答率は87.9%で、県よりも4.5ポイント高い。<br>○参加者の発言の内容を基に、司会者の発言に適する内容を書く問題の正答率は87.1%で、県よりも9.8ポイント高い。<br>○話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる問題の正答率は90.6%で、県よりも5.7ポイント高い。                                                                                                                                                        | ・「話すこと・聞くこと」を扱う単元において、発表を聞くだけでなく、聞き取ったことをまとめる力や、自分の考えと比較しながら聞き取る力など、育てたい力を明確にして活動に取り組みさせることで、さらに聞く力を高めていく。                                     |
| 書くこと             | ・領域の正答率は70.3%で、県よりもかなり高く、22.1ポイント上回った。<br>○指定された長さで文章を書く問題の正答率は82.4%で、県よりもかなり高く、25.8ポイント上回った。<br>●4問全てにおいて、正答率は県を大きく上回っているが、無解答率が8.2%であり、他領域よりも無解答率が高い傾向にある。                                                                                                                                                               | ・事実と自分の考えを区別して書くような、指定された形での短作文の練習を今後も繰り返し行っていく。<br>・他の教科においても、事実と根拠を明確にして記述する機会を設けて指導する。                                                      |
| 読むこと             | ・領域の正答率は70.2%で、県よりも5.1ポイント高い。<br>○登場人物の気持ちの変化について説明した文として、適するものを選ぶ問題の正答率は91.8%で、県よりも10.2ポイント高い。無解答率も0.0%であった。<br>○叙述を基に指示語の内容を捉える問題の正答率は85.9%で、県よりも8.2ポイント高い。<br>●登場人物の気持ちについて説明した文の空欄に適する言葉を、指定された条件で記述する問題の正答率は37.7%で、県より4.7ポイント高いが、領域の中で最も低い正答率であり、課題があると言える。<br>●文章の内容を説明した文の空欄に適する言葉を書き抜く問題の正答率は67.1%で、県よりも4.1ポイント低い。 | ・物語文と説明文の読む力を付けていくために、今後も継続して、読書の推奨、習熟プリントの活用を図っていく。<br>・設問において、指示通りに回答できるように、同様な問題に触れ、反復練習をさせる。                                               |

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 67.2 | 63.0 | 63.3 |
|     | 図形       | 74.7 | 69.2 | 68.3 |
|     | 変化と関係    | 63.1 | 54.8 | 55.0 |
|     | データの活用   | 78.5 | 73.1 | 72.3 |
| 観点  | 知識・技能    | 67.7 | 62.3 | 62.1 |
|     | 思考・判断・表現 | 73.3 | 68.7 | 68.7 |



★指導の工夫と改善

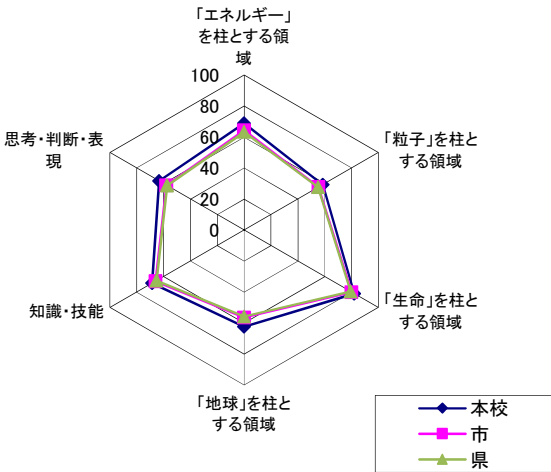
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は67.2%で、県よりも3.9ポイント高い。</li><li>○式の意味を表したものとして、正しい図を選ぶ問題の正答率は非常に高く、92.9%で、県よりも7.8ポイント高い。</li><li>●23億が23万の何倍かを答える問題の正答率は35.3%で、県と同程度であるが、数と計算領域の中で最も低い正答率であり、課題があると言える。</li><li>●計算のきまりを理解し、計算の間違いを説明する問題の正答率は57.7%で、県と同程度であるが、全問題の中で無解答率が最も高い14.1%となっている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・大きな数について、位取り表を用いて表すことを通して、4桁ごとに万、億、兆という新しい単位を取り入れることや、整数を10倍するごとに位が1桁ずつ上がり、10分の1にするごとに位が1桁ずつ下がるという整数の仕組みについてイメージできるように指導する。</li><li>・四則の混合した式や( )を用いた式について、乗法、除法を加法、減法より先に計算すること、( )の中を先に計算することなどの計算のきまりを、練習問題に多く取り組ませることを通して理解を深め、習熟を図る。</li></ul> |
| 図形     | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は74.7%で、県よりも6.4ポイント高い。</li><li>○立方体と直方体の違いを選ぶ問題の正答率は89.4%で、県よりも3.5ポイント高い。</li><li>●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題の正答率は56.5%で、県よりも2.6ポイント高いが、図形領域の中で最も低い正答率である。</li></ul>                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"><li>・三角定規のそれぞれの角の大きさについて復習し、定着を図る。また、繰り返し類似の問題に取り組ませることで、角度を足したり引いたりして答えを求める問題の習熟を図る。</li></ul>                                                                                                                                                          |
| 変化と関係  | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は63.1%で、県よりも8.1ポイント高い。</li><li>○表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題の正答率は85.9%で、県よりも11.5ポイント高い。</li><li>●割合を使った長さの求め方を説明する問題の正答率は47.1%で、県よりも7.3ポイント高いが、変化と関係領域の中で最も低い正答率である。</li></ul>                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"><li>・基準量と比較量について、言葉や図、式などを用いて表す活動に取り組ませ、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に、割合を用いる場合があることへの理解を深める。</li></ul>                                                                                                                                                   |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は78.5%で、県よりも6.2ポイント高い。</li><li>○二次元の表の空欄がどのような人数を表しているか説明する問題の正答率は84.7%で、県よりも8.3ポイント高い。</li><li>●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ問題の正答率は69.4%で、県と同程度であるが、データの活用領域の中で最も低い正答率である。</li></ul>                                                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>・理科や社会科等の他教科と関連させ、複合グラフに触れる機会を増やし、表やグラフのどの部分が何を示しているのかを説明し合う活動に取り組ませることで、データの値の相関関係を捉えることができるようにする。</li></ul>                                                                                                                                        |

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 68.8 | 64.3 | 63.2 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 58.6 | 55.4 | 55.1 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 82.0 | 80.1 | 79.3 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 62.4 | 56.4 | 55.8 |
| 観点  | 知識・技能          | 68.6 | 66.0 | 65.3 |
|     | 思考・判断・表現       | 63.3 | 57.9 | 57.4 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は68.8%で、県よりも5.6ポイント高い。</li><li>○乾電池のつながり方に関する問題の正答率は81.2%で、県よりも13.9ポイント高い。</li><li>●図で示された回路から電流が流れない原因の箇所を選ぶ問題の正答率は63.5%で、県よりも1.2ポイント低い。</li></ul>                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>・乾電池の直列、並列のつながり方や電池の向きによって流れる電流の向きが変わることについては、5年「電流と電磁石」等によく復習していく。</li><li>・簡易検流計などの道具を用いて実験するなど、体験的に学ぶ機会を増やしていく。そして、それを絵や図、表などにまとめる機会を設け、仕組みや原理が身に付けられるようにする。</li></ul>                                        |
| 「粒子」を柱とする領域    | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は58.6%で、県よりも3.5ポイント高い。</li><li>○ピストンを使って閉じ込めた空気を圧した場合の、手ごたえの変化を答える問題の正答率は非常に高く、92.9%で、県よりも2.4ポイント高い。</li><li>●ガラス瓶の上に置いた1円玉が動いた理由を、温められた空気の性質と関連付けて記述する問題の正答率は32.9%で、県よりも3.2ポイント高いが、全問題の中で最も低い正答率である。また、無解答率も最も高い9.4%である。</li><li>●水を冷やす実験について、予想に沿った結果のグラフを選ぶ問題の正答率は49.4%で、県よりも7.5ポイント低い。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・粒子に関する領域では、全体的に正答率が低い傾向があり、科学的事象と実生活を結び付けながら、実感を伴って理解するとともに、根拠を基に表現することができるよう支援していく。</li><li>・水を冷やしたときの温度変化については、結果の予想の際にグラフがどうなるかを考えさせたり、実験の結果をグラフで表現し読み取る活動を充実させたりする機会を増やしていく。</li></ul>                      |
| 「生命」を柱とする領域    | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は82.0%で、県よりも2.7ポイント高い。</li><li>○夏に記録されたサクラのようすを選ぶ問題の正答率は非常に高く、96.5%で、県よりも7.1ポイント高い。無解答率も0.0%であった。</li><li>○骨と骨のつながり目の名称を答える問題の正答率は95.3%で、県よりも7.1ポイント高い。</li><li>●骨の働きを説明した文章を選ぶ問題の正答率は47.1%で、県よりも5.1ポイント高いが、「生命」を柱とする領域の中で最も低い正答率である。</li></ul>                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・本校の児童は、自然や動物などと触れたり、感じたりする場面や機会が非常に少ない。そのため、理科や総合的な学習の時間の田植えなどの学習で進んで校外に出て、四季を感じ、動植物の様子の変化に気付けるようにしていく。</li><li>・実際に体の動きや運動を観察したり、触れながら比較したり、映像や模型などを活用したりしながら、人や他の動物の骨のはたらきについて考えたり、説明したりする活動の充実を図る。</li></ul> |
| 「地球」を柱とする領域    | <ul style="list-style-type: none"><li>・領域の正答率は62.4%で、県よりも6.6ポイント高い。</li><li>○校庭の土、砂場の砂、砂利を使った実験結果から、水がしみこみやすい粒の特徴を答える問題の正答率は85.9%で、県よりも3.3ポイント高い。</li><li>●一日の気温の変化を示したグラフを選ぶ問題の正答率は35.3%で、県よりも7.3ポイント低い。</li></ul>                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"><li>・グラフを正確に読み取れるように、算数と関連付けて定着を図っていく。</li><li>・今後も実験結果から考察する機会を増やし、自分の言葉でまとめるなどの学習を継続していく。</li></ul>                                                                                                                |

## 宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」の質問では62.8%で、県よりも7.6ポイント高く、「家で、学校の授業の復習をしている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は81.4%で、県よりも14.6ポイント高い。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は76.7%で、県よりも12.2ポイント高い。この結果から、児童は学校の授業やテストに高い関心をもっており、家庭での予習や復習がしっかりできていることが分かる。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか。」の質問に、「11冊以上読んでいます」と回答した児童の割合は32.6%で、県よりも16.3ポイント高い。引き続き、朝の読書の時間や校内読書週間などの取組を通して、読書の習慣化に努めていきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は82.5%で、県よりも14.4ポイント高い。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は78.0%で、県よりも8.8ポイント高い。自主学習ノートの記述などからも、多くの児童が様々なことに興味をもったり、身の回りの事象に関心をもったりしていることが分かる。今後も、児童の興味・関心を高める授業を行ったり、家庭学習の取組を称賛したりするなどして、世の中の様々な事象に興味をもたせていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は93.0%で、県よりも9.8ポイント高い。また、「自分の行動や発言に自信をもっている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は79.1%で、県よりも17.7ポイント高い。学級や家庭での声かけや支援など、児童が安心して生活できている様子がうかがえる。今後も、家庭と連携しながら、児童の自己肯定感が高まるように支援していきたい。

○「歴史上の人物やできごとをあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は68.7%で、県よりも10.4ポイント高い。授業中の発言からも、歴史好きな児童が多いことがうかがえる。日光への校外学習や宇都宮学などを通して、歴史に関心をもつ児童が増えている。引き続き興味・関心をもたせ、来年度の歴史の授業につなげていきたい。

●「家で勉強をするときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は59.3%で、県よりも6.0ポイント低い。しかし、上記の通り家庭での学習は習慣化されており、取り組む時間を見付けるなどの工夫をして学習に取り組んでいると考えられる。今後も、家庭学習強化週間などの取組を通して、家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化に向けた支援や啓発に努めていきたい。

●「しょう来のゆめや目標をもっている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は83.7%で、県よりも5.4ポイント低い。道徳や学級活動、また総合的な学習の時間のキャリアに関する学習などを通して、児童が将来への夢や希望をもてるような支援を行っていきたい。

## 宇都宮市立雀宮中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                        | 取組の具体的な内容                                                                                                              | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ねらいの明確化と児童自身での目標の設定による学ぶ意欲の向上 | 教師が授業の導入でねらいを明確に示したり、児童自身が目標を設定したりすることにより、児童が学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにしている。                                            | 「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、4・5年生ともに県と同程度である。<br>「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の質問に肯定的に回答した5年生児童の割合は77.9%で、県よりも4.0ポイント高い。しかし、4年生児童の割合は62.1%で、県よりも12.6ポイント低い。 |
| 個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指した授業づくり   | 協働学習ソフトやワークシート等、児童が学習方法や教材を選択できるようにしたり、発展的な課題に取り組めるように教材を用意したりしている。また、ペアやグループ学習を積極的に行い、児童が考えを深め合えるようにするための授業づくりに努めている。 | 「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4・5年生ともに県と同程度である。                                                                                    |
| 振り返りの時間の確保                    | 授業の終末に、児童一人一人が本時の振り返りを行い、ノートやワークシートに記述する時間を設けている。                                                                      | 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生が86.4%で県よりも8.4ポイント高い。一方で、5年生が79.1%で県よりも2.7ポイント低い。                                                                    |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                                                                             | 重点的な取組               | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教科に関する調査では、「理由や自分の考えを明確にして書く」、「間違いを説明する」、「指定された条件で記述する」といった問題において、正答率が低い、または無解答率が高いという傾向が見られる。質問調査では、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と答えた児童が、4・5年生ともに半数以上である。 | 考えを説明したり書いたりする表現力の育成 | 授業で、自分の考えをまとめる時間を確保し、協働学習ソフトや共有機能を活用した学び合いに、児童一人一人が自分なりの意見や考えをもって参加できるようにする。また、自分の考えや調べたことを提示しながら話し合う活動を意図的に位置付けたり、少人数での発表を行ったりするなど、児童が経験する場を多くし、記述を含めた表現することへの自信や意欲をもたせるようにする。 |